

色と絵の具と氷のふしぎ



凍ってるんだよ。

（お気に色の色はどれ？）んー…全部！

全部光って見える。

水が多いからかも。

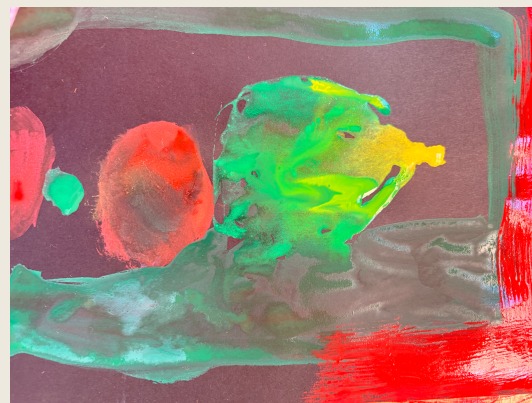
水じゃなくて氷なのに。

水になって混ざってる。

これ蝶々みたいでしょ。

トマト書いてみる。

—子どもたちの対話より—



虹、紅葉、蝶々、トマト、自然物には決まった色ではなく、思わず蝶々色！トマトの色！と言いたくなるような、なに色とも言えない色がたくさんあります。絵の具を水に溶いて冷凍庫へ。出来上がったのは絵の具氷(勝手に命名)。画用紙を広げ筆を取るではなく、氷を滑らす。いつもとは違う方法に「絵の具が光って見える」と表現する子どもたち。どれも素敵！全部好き！と思いながら「どこら辺がお気に入りなの？」と尋ねると「んー…全部！」「うん、同じ！」と顔を見合わせて笑う時間。「みて、美術館に飾っても一等章だと思う！」という言葉が、子どもたちが観ている世界はこんなにも美しく、輝いているんだと改めて実感するきっかけをくれる。水が垂れて色が混ざる瞬間「あああ…」と思わず心配になる僕。「混ざった！」と新たな発見をする子ども。「整っている方が」と勝手に枠組みを決めているのは大人達なのかもしれない。子ども達からはいつも教えられてばかり。